

南田中図書館の雑誌・新聞をご紹介します

南田中図書館は現在、雑誌は130誌以上、新聞は20紙以上を継続して受け入れています。その中から、雑誌の担当者がテーマを決めて、毎回2タイトルを紹介します。

今月のピックアップテーマは… **語学**

★ HIRAGANA TIMES (ひらがなタイムズ) 【雑誌】

日本の生活に密着した記事を日本語・英語で紹介。日本を学ぶ海外の方だけでなく、日本を英語で紹介したい方にもオススメです。

★ CNN ENGLISH EXPRESS 【雑誌】

アメリカのテレビ局CNNと提携。基礎・中級・上級の3段階でリスニングを鍛えます。ネイティブの英語でスキルアップは間違いなし！

時事展示
1階正面入り口横
新生活 start!

一般特集
1階フロア奥通路/館外出窓
家読のタネ

青少年特集
2階青少年コーナー
のんびり自由時間

地域特集
1階カウンター前
照姫伝説と石神井公園



階段展示
階段踊り場
はる

環境特集
1階正面玄関前 環境コーナー
リチウムイオン電池

視聴覚特集
1階コピー機横 新着CD棚
「眠」

児童特集
2階エレベーター前
がっこうの
あんなこと こんなこと

中高生大募集!

スタッフと共に青少年イベントを盛り上げていく中高生ボランティア「ユースサポーター in Minamitanaka」のメンバーを随時募集しています。詳細は南田中図書館内のポスター・チラシをご覧ください。

南田中図書館だより

2026

4

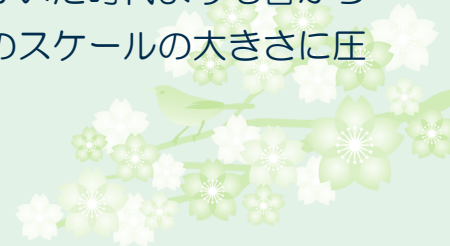
第197号

発行 練馬区立南田中図書館
指定管理者 株式会社図書館流通センター
令和8年(2026年)4月1日発行

桜

4月は多くの人にとって新しい生活の始まりです。特に入学や入社などいままでの生活様式から一気に変化してしまい忙しい日々を送っている人も多いのではないのでしょうか。

ただ、そんな忙しい日々にあって、この季節は様々な木々や花たちが咲き誇り、目にも心にも楽しませてくれる時期でもあります。そんな木々や花の中でも古くから日本人に親しまれてきた桜は、ひときわ目を引く存在ではないのでしょうか。桜は日本には11種類の固有種があるとされています。桜のなかでも特に有名な品種がソメイヨシノですが、実は固有種ではなく、日本の固有種であるオオシマザクラとエドヒガンの栽培品種であり、日本にあるソメイヨシノはすべてひとつのソメイヨシノから接ぎ木で増やしたクローンであることはご存知でしょうか。また、日本には三大桜と呼ばれる推定樹齢1000年を超える国の天然記念物に指定されている桜があります。その中でも山梨県にある山高神代桜(ヤマタカジンダイザクラ)は推定樹齢2000年とも言われています。儂(はかな)いともいわれる桜ですが、邪馬台国の卑弥呼がいた時代よりも昔から生きていると考えれば、そのスケールの大きさに圧倒されてしまいますね。



図書館スタッフおすすめの本

978-4から始まる13桁の数字は
本を識別する「ISBNコード」です

一般

ひどい民話を語る会

京極夏彦 著 | 多田克己 著 | 村上健司 著 | 黒史郎 著
KADOKAWA | 2022年
978-4-04-112327-0



話の面白い人は話の“ツボ”を押さえています。事実を正確に伝えるより、出来事のどこが面白いかを見極め、“ツボ”を伝えます。その極地が民話です。民話は伝わる過程でどんどん盛られ、面白可笑しくなっていきます。民話に現代におけるコンプライアンス的要素はありません。その結果、「ひどい民話」が完成するのです…。

青少年

キミの一步イタリア

夢につながるうねうね道
佐藤まどか 文 | 酒井以 絵
あかね書房 | 2025年
978-4-251-09641-8



著者がミラノとトスカーナで子育てをする物語です。娘である杏奈はアイデンティティを模索しながらたくましく成長していきます。日・伊・英の保育園～大学、就職までのしくみの違いも読んでいて楽しいポイントです。人間関係や進路に悩み、困難にぶつかりながら挑戦した経験はきっと将来の宝物になることでしょう。

CD

最新音楽療法 睡眠障害改善 ベスト

ネイチャー ノーツ
2025年
KICW 7330



現代社会において、多くの方が悩まされているのが不眠症です。その改善策として、注目を集めているのが音楽の活用です。音楽は私たちの心身にさまざまな影響を与えますが、睡眠の質を高める効果が期待されています。このCDは、脳科学研究者と共同開発された、深く心地よい眠りを誘う眠りのための音楽です。

新刊
児童

春の雨にぬれて、獅子はおどる

岳明秀 作 | いうあつき 絵
講談社 | 2025年
978-4-06-541476-7



親の都合で、東京から岐阜の村へ引っ越してきた、小学5年生のナオコ。
村での慣れない生活に戸惑いながらも、ある日、春祭りに向けた獅子舞の見学があり、ナオコにはある思いが芽生える。この村で「獅子を舞いたい」ということ。しかし、この村の獅子舞は、女子は笛を、踊りは男子がすることが決まっていた…。